（別紙様式３）

令和５年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　高知県高知市丸ノ内１丁目７番 52 号
管理機関名　高知県教育委員会
代表者名　　長岡　幹泰

令和４年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和４年４月１日（契約締結日）～令和５年３月 31 日

２　指定校名・類型
学校名　　高知県立大方高等学校
学校長名　正木　敏政
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名
「地域密着型の未来の“地域の創り手”人材の育成（ソピアの旗）プロジェクト」

４　研究開発概要
本校はこれまで、総合的な探究の時間において「自律創造型地域課題解決学習」を柱として位置づけ、コミュニティ・スクールの強みを生かした取組を進めてきた。近年は学校設定科目である地域学において地域防災における課題解決に取り組んでいる。生徒たちは、地域に出て地域から学ぶことにより課題解決能力が身に付いており、探究力の向上や地域貢献等への意欲も向上している。
今後は本事業を通して付けたい力「探究力」「つながる力」「多様性受容力」「マネジメント力」「レジリエンス」を育成するとともに、直接・間接に関わらず郷土を愛し誇りをもった未来の「地域の創り手」となる人材の育成を目指す。そのため外部の専門家との連携を基に、新学習指導要領で位置づけられている探究活動を推進し、効果的なカリキュラムの開発を行い、事業終了後も改善を進めながら効果的な取組を継続していく。

５　学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無
・学校設定教科・科目　　開設している　・　開設していない
・教育課程の特例の活用　　活用している　・　活用していない

6　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
畦地　和也	黒潮町教育委員会　教育長	関係行政機関の職員
村上　健太郎	NPO 砂浜美術館　理事長	学識経験者
矢守　克也	京都大学　教授 人と防災未来センター　上級研究員	学識経験者
石筒　覚	高知大学地域協働学部　准教授	学識経験者
田中　理恵	地域・教育魅力化プラットフォーム	学識経験者
長岡　幹泰	高知県教育委員会　教育長	管理機関の職員

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
高知県教育委員会	長岡　幹泰（教育長）
高知大学次世代地域創造センター	川村　晶子（特任教授・学長特別補佐）
合同会社 NOKs Labo	山﨑　直子（代表）
京都大学大学院矢守研究室	杉山　高志（研究員）
黒潮町観光ネットワーク	森田　俊彦（会長）
黒潮町産業推進室	濱口　無双（産業推進係主任）
黒潮町教育委員会	清水　幸賢（教育次長）
黒潮町立佐賀中学校	宮﨑　宏治（校長）
黒潮町立大方中学校	大塚　明人（校長）
高知県立大方高等学校	西村　優美（地域学校協働活動推進員）
高知県立大方高等学校ＰＴＡ	酒井　　稔（会長）
高知県立大方高等学校同窓会	村越　　麗（同窓代表）
高知県立大方高等学校	正木　敏政（校長）

8　カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	杉山　高志	京都大学大学院矢守研究室・研究員	都度依頼し謝金支払い
カリキュラム開発等専門家	川村　晶子	高知大学　特任教授・学長特別補佐	都度依頼し謝金支払い
カリキュラム開発等専門家	森　　和美	高知大学　次世代地域創造センター地域 DX 推進グループ	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習実施支援員	西村　優美	大方高校地域学校協働活動推進員	都度依頼し謝金支払い

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施期間（　令和４年４月１日　～令和５年３月 31 日）											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
各種会議等における日程調整や情報提供	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
円滑な事業執行のための学校への助言	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
国費に上乗せした独自の支援や取組の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
地域協働学習実施支援員の配置	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

（２）実績の説明

①運営指導委員会について

活動日程	活動内容
令和４年８月１日	第１回運営指導委員会 ア　令和４年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の取組についての説明。 イ　アに対しての意見や助言をいただいた。 ウ　探究活動や地域との連携について協議が行われ、指導・助言をいただいた。
令和５年３月 16 日	第２回運営指導委員会 ア　令和４年度の取組・成果・課題についての説明と、次年度以降の取組についての説明。 イ　アに対しての意見や助言をいただいた。地域学や総合的な探究の時間を他の教科と並列ではなくベースとして学ばせ、他教科でも横断的にクロスさせる等の指導・助言をいただいた。

②コンソーシアムについて

活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和４年８月 26 日	第１回コンソーシアム委員会 ア　令和４年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組について、令和４年度第１回運営指導委員会でいただいた指導・助言を生かした事業計画等の報告。 イ　アに対しての意見や助言、協働できることの提案をいただいた。 ウ　取組を充実させるために必要なことについて協議を行った。学校からは「10 月実施予定の大方高校アイデアソンに向けての参加のご協力」、「防災での地域との協働」に関して、人材派遣の依頼や今後の地域との協働した学習の充実に向けた協議を行い、意見や助言をいただいた。
令和４年４月 22 日、５月 27 日、８月 30 日、10 月 17 日、令和５年１月 16 日、３月 13 日	ふるさとキャリア教育　黒潮町まるごと教育祭 教育祭の実施方法等についての協議を実施。保育所、小学校、中学校などの関係機関と６回の協議を重ねた。コロナ禍により集合ではなく地元ケーブルテレビでの放送としてきたが、この方法が参加もしやすく輪を広げていきやすいということになり、今年も黒潮町のケーブルテレビで配信した。
令和５年２月 14 日	第２回コンソーシアム委員会 ア　令和４年度の取組・成果・課題についての説明と、次年度以降の取組についての説明。 イ　アに対しての意見や助言をいただいた。 ウ　コンソーシアムと学校の連携についての協議。

③カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けは以下のとおりである。

【総合的な探究の時間のカリキュラム開発担当】

高知大学　次世代地域創造センター客員准教授　川村晶子氏（都度謝金支払い）

【地域学のカリキュラム開発担当】

京都大学矢守研究室研究員　杉山高志氏（都度謝金支払い）

活動実績【総合的な探究の時間】

活動日程	活動内容
令和４年５月６日	高知大学次世代地域創造センターで協議
令和４年６月 17 日	オンライン　・カリキュラムの内容について
令和４年７月 8 日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和４年８月５日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和４年８月 19 日	オンライン　・取組状況の共有と課題解決に向けた意見交換
令和４年８月 31 日	オンライン　・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和４年９月 13 日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和４年９月 16 日	オンライン　・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議

令和４年９月　24 日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和４年９月 29 日	オンライン　・次年度の方向性と探究活動について協議
令和４年９月 30 日	オンライン　・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和４年９月 13 日	対面　・３年生発表会の講評等
令和４年９月 16 日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和４年９月 28 日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和４年９月 29 日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和４年 11 月 1 日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和４年 11 月 25 日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和４年 12 月 7 日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の共有と意見交換
令和４年 12 月 16 日	対面　・３年生と対話による意見交換および助言
令和５年１月 11 日	対面　・３年生のプレゼンテーションへの助言
令和５年１月 26 日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和５年１月 27 日	対面　・進捗状況の共有と意見交換
令和５年２月７日	オンライン　・進捗状況の共有と意見交換
令和５年２月９日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の共有と意見交換
令和５年３月３日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の共有と意見交換
令和５年３月 14 日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の共有と意見交換
令和５年３月 22 日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の共有と意見交換

活動実績【地域学】

活動日程	活動内容
令和４年６月 28 日	オンライン　・地域学のカリキュラムの全体像について ・未来へのメモワールについて ・教科横断的防災学習について
令和４年８月３日	オンライン　・地域学のカリキュラムの全体像について ・未来へのメモワールについて
令和４年９月 29 日	オンライン　・防災委員会の取組について ・活動を効果的に進めるための意見交換
令和４年 10 月 20 日	オンライン　・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和４年 11 月 18 日	オンライン　・防災委員会の取組について ・活動を効果的に進めるための意見交換
令和５年１月 12 日	オンライン　・JICA との交流についての打ち合わせ
令和５年２月 16 日	対面　・逃げトレアプリを用いた避難路検証の支援
令和５年２月 17 日	対面　・臨時情報についての支援

上記の活動の他に、電子メール等によりカリキュラムの内容や評価、展開上の留意点等について打ち合わせを行った。

④地域協働学習実施支援員について

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けは以下のとおりである。

大方高校地域学校協働活動推進員　西村優美氏（都度謝金払い）

活動実績

日程	内容
令和４年８月１日	運営指導委員会 地域協働学習実施支援員として出席
令和４年 10 月６日	アイデアソンに参加
令和４年 12 月７日	２年　ワールドカフェに参加
令和５年２月 10 日	総合的な探究の時間　取組の協議
令和５年２月 13 日	コンソーシアム委員会出席
令和５年２月 21 日	総合的な探究の時間　取組の協議

仕事上の都合で来校が難しい状況であったが、ポイントポイントで来校しての支援をいただいた。また、来校以外では電子メール等により展開上の留意点等について打ち合わせを行った。

⑤管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

・各種会議等における日程調整や情報提供
・円滑な事業執行のための学校への助言
・国費に上乗せした独自の支援や取組の実施
・地域協働学習実施支援員の配置
・発表会や研究会での評価者としての参加および評価者人材紹介（コンソーシアム）
・地域学の防災学習における助言（コンソーシアム）

⑥高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和２年５月 25 日に、「黒潮町と高知県立大方高等学校における防災・地域課題解決を担う未来の地域の創り手人材の育成に係る協定書」を締結した。

〈添付資料〉黒潮町と高知県立大方高等学校における防災・地域課題解決を担う未来の地域の創り手人材の育成に係る協定書

⑦事業終了後の自走を見据えた取組について

事業終了後も取組を継続させていくため、防災と地域課題解決に関する取組に対して継続した支援をもらえるよう、黒潮町と協定を締結している。

併せて、黒潮町の人口減少の中、大方高校の魅力化促進に向け黒潮町と継続協議を行うこととしている。

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

実施項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
地域学（地域学入門）探究学習	６回	９回	10回	８回		８回	10回	６回	８回	９回	７回	
地域学（地域学Ⅰ）探究学習	４回	６回	６回	４回	２回	６回	４回	６回	６回	６回	６回	
地域学（地域学Ⅱ）探究学習	10回	16回	12回	８回	３回	10回	９回	12回	12回	６回		
総合的な探究の時間（１年）	３回	３回	４回	２回	１回	３回	２回	３回	４回	４回	４回	
総合的な探究の時間（２年）	３回	３回	４回	２回	１回	３回	３回	３回	３回	４回	３回	
総合的な探究の時間（３年）	３回	３回	６回	２回	１回	３回	２回	３回	３回	２回		
課外活動における地域との協働活動				１回		１回	２回		４回	２回	２回	

（２）実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本事業の中核となっている学校設定科目である地域学と総合的な探究の時間において、探究活動を位置づけた年間の学習イメージ（グランドデザイン）を、カリキュラム開発等専門家の助言をもとに作成した。その際、「情報収集力」、「情報分析力」、「情報編集力」、「判断・決定力」、「論理的思考力」、「表現力」、「批判的思考力」等の課題発見・解決に必要な力を、学年ごとに身に付ける目標を定め活動を決定した。

生徒には、年度当初に年間計画、ルーブリック評価、卒業までに目指す生徒像等を提示し、年間の見通しと身に付けさせたい力の共有を図り事業を進めた。進めるにあたっては、生徒の状況に応じてその都度手法を変更するなど柔軟に対応しながら展開した。

学外の方にも協力いただき、多様な学びの場を提供できるよう進めていった。

〈添付資料〉地域学と総合的な探究の時間の「グランドデザイン」

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置づけ（各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定教科・科目等）

本年度は、学校設定科目である地域学、総合的な探究の時間、学校行事等で横断的な学習を計画した。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

本年度は、各教科においての防災の観点を取り入れた探究的な授業展開について、カリキュラム開発等専門家である杉山氏を講師にオンラインにて研修会を開催した。また、学校行事においてもテーマと関連させた取組を行った。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

研究開発のイメージを示したビジュアル資料をもとに職員間で共有を行い、下記の育てたい５つの力を育成するために、「総合的な探究の時間」の学年担当者、「地域学」担当者で基本的に毎週協議を行い、学年団で共有を図った。

【育てたい５つの力】

Ⅰ	探究力	情報収集による課題理解・解決に向けた課題解決力
Ⅱ	つながる力	コミュニケーション・プレゼンテーション力、思いや願いの理解
Ⅲ	多様性受容力	多様な人との交流や理解
Ⅳ	マネジメント力	計画を立て取り組める力
Ⅴ	レジリエンス	厳しい状況の改善に向けた意識と実践

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

総合的な探究の時間の担当者や地域学の担当者、防災教育プロジェクトチームや生徒会担当教員などが連携しながら取組を推進している。地域との連携は本事業の事業統括主任である地域学担当教員や、防災教育プロジェクトチームの責任者である教頭を中心として外部との連絡調整を行い、各学年担当他に取組を進めるという形で推進した。

⑥カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

カリキュラム開発等専門家

・カリキュラム開発全般に関わる計画への指導助言
・発表会等における評価者としての関わりと教員との振り返り
・コンソーシアム委員会への出席・指導・助言

地域協働学習実施支援員

・地域人材との連携や活用に向けての連絡・調整
・本校事業に参加いただき生徒の状態を見たうえでの助言

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

カリキュラム開発等専門家との協議をもとに、担当者間の協議を基本的に毎週実施し進捗状況の確認や課題の洗い出し・改善方法の検討等を行った。特に、カリキュラム開発等専門家との協議は、オンライン会議システムを用いることにより多く実施することができ、きめ細やかな対応ができた。また、成果検証のアンケート結果等を管理職と分析し、取組状況と成果と課題等についての検討を行った。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

京都大学矢守研究室研究員の杉山氏には本校防災委員会の取組や避難訓練時の防災活動について意見や助言をいただいた。また、黒潮町情報防災課とつないでいただき、防災活動に関して地域と連携した取組を行うことができた。

総合的な探究の時間においては、カリキュラム開発等専門家の川村氏から、グランドデザイン（年間の学習イメージ）の設計を行った。

具体的な活動に関して２点、活動成果を含め報告する。

１つ目は、全校生徒を対象にした「アイデアソン」である。黒潮町役場から 11 名、コンソーシアム委員である川村氏や森氏、西村氏、山崎氏、西村氏、佐賀中学校教員４名の方にご協力いただいた。また、今までの探究学習における関わりや先生方の紹介の方を含め、外部の方 50 名近くの方に協力していただき、充実した内容にすることができた。

２つ目は、２年生を対象にした「ワールドカフェ」である。コンソーシアム委員である川村氏や森氏、西村氏、さらには、コンソーシアム委員の皆様の関係者等計 12 名の方にご協力いただいた。

外部の方にご協力していただくにあたり、歌手の方や研究員の方など多様な職種の方に参加していただくことを意識し活動を行った。そのことで、テーマに対して多様な視点からアイデアが生まれ、教員と生徒という関係性のみでは生み出すことのない視点を出すことができ、学習が大変充実したものとなった。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導・助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員の方から、運営指導委員会において、本事業に対しての指導や助言をいただいた。特に、「義務教育を含めての地域連携と探究活動の連続性について」、「ルーブリック評価」、「振り返りの活用」、「探究活動の重要性」等については専門的な見地から指導・助言をいただいた。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

「防災」をキーワードとした探究活動を展開することにより、地域の「防災」や魅力化に向けた課題解決を進め、未来の「地域の創り手」人材の育成を目指した取組を展開してきた。生徒の自己評価や外部評価において、肯定的な評価をもらうことができた。

今年度は地域の方々やコンソーシアム委員の方などをお呼びしての１５０人規模でのアイデアソンやワールドカフェなどの取組を実施した。活動を通して生徒に助言等をいただくことができた。

⑪成果の普及方法・実績について

地域学・総合的な探究の時間に関する取組をＳＮＳで紹介した。また、発表会をオンライン配信し、運営指導委員会やコンソーシアム委員会の委員が視聴できるようにした。３年生の発表は、本事業を受けている学校にも案内をしてオンライン配信する計画であったが、ハウリング対策を行うことができなかったため配信は中止した。

毎月発行している「ソピアの旗だより」においても、生徒の活動の様子等を、県西部地域の中学校３年生とその保護者、黒潮町民に対して紹介した。

１１　目標の進捗状況、成果、評価

（１）事業実施において設定した目標におけるアウトカム目標の達成状況

実施したアンケートの結果分析から、現時点では全ての学年において目標を達成できているとは言えない状況であるが、今後の取組を通して達成に向けた期待は十分あると考えている。アンケートでは昨年より下がった項目もあるが、生徒の聞き取りからは、昨年に続き学んだからこそ自分ができていないことに気づき、評価を下げたという声も聞かれ、今後に向けての意欲を感じた場面もあった。

高知県教育委員会が独自に実施する「高知県オリジナルアンケート」（別添資料）については、全体的に見ると肯定的な回答が多く見られたが、目標として設定（目標設定シート）している「地域への貢献等の活動を通して、自己効力感や自己有用感をもつことができた」と回答する生徒の割合では、目標値を大きく下回る結果となった。コロナ禍ではあるが、で

きることを考え実施し、昨年より交流できている。しかし、自分たちの活動が地域貢献になっていると思えていない生徒もいると思われ、地域の方にとって有用な活動をしたときにはそのことを伝えていかなければいけないと感じた。

「物事に取り組む際には、目標を立てその達成に向けて努力することができる」と回答している生徒の割合は72%であり、昨年よりは上昇したが目標の80%には届かなかった。生徒のアンケートの結果より、探究活動を通して見通しを立て、それに向けて最後まで取り組むことができるようになっているが、学んだからこそまだ足りないと記述している生徒もいる。探究活動を通して、この項目の内容が実行できるように継続していきたい。

地元（本校の設定は県内）への定着率については、約63%の生徒が地元での進学・就職が決まっており、県内就職者は100%となっている。

「高校魅力化評価システム」の結果を、学年別に振り返ると、１年生（昨年度入学生との差での考察）では、学習者は「協働性に関わるウェルビーイング」「社会性に関わるウェルビーイング」が非常に高い水準にあり、各項目で肯定的な思いを抱いていることが分かる。一方で、ほかの項目では高くない結果となっている。本結果から、生徒の行動実績や資質・能力の向上を実感できる機会・準備が十分でなかったことが授業者側の反省点としてあげられる。今年度の探究学習ではテーマを「自分探究」とし、自分と向き合う機会や他者の生き方に触れる機会はあったが、それを誰かのためになるような形でアウトプットする機会は少なかった。そのことが結果につながったのではないかと考える。強みであげた部分は探究力や主体性の向上に向けた成長エンジンであるため、今後も温めつつ、誰かのためになるような機会を取り入れ、成長した実感を得られる学習活動を推進していく。

２年生は、成果に関して、自身の考えやアイデアを構造的に１枚で表現し、その内容を他者に効果的に伝えることができるようになったことがあげられる。アンケート項目の「自分の考えを文章や図表にまとめる」においては、９割以上の生徒が肯定的な回答であり、アイデアスケッチやエレベーターピッチを活用したアイデアの構造的表現技法の獲得やアイデアソンなどでの提案内容を模造紙やスライドでアウトプットする機会を多く設けたことが要因として考えられる。また、「地域の課題の解決方法について考える」においては、88%の生徒が肯定的な回答であり、砂浜美術館や黒潮町全体といった地域教材を、年間を通して活用し、目指す生徒像や身に付けさせたい力を明確化し、指導できたため、地域をよりよくしていく未来志向の課題解決アプローチをできるようになったと思われる。

課題としては、探究性に関わる学習活動に関しては、力が付いたと認識しているが、求められる力までは到達していないという結果が得られた。数値を見ると、ポイントは大きく下がっているが、逆の見方をするとメタ認知できるようになったと考えることもできる。また、ルーブリック評価において、社会で求められているレベルを最高評価に位置付けたことで、自身の現状と理想のGapが可視化できてきたともとらえることができる。

３年生では、協働性に関わる行動の項目が向上している。これは、生徒が考えたアイデアを生徒間だけでなく、ワールドカフェの実施により、社会人の方々からのアドバイスや助言をもらう活動を行ったことが要因として考えられる。一方で、主体性の向上を図ったが、生徒の自己認識では粘り強さの項目で前年度と比べ肯定的回答が減少した。失敗してもよいという雰囲気づくりができていなかったことが原因と考えられる。また、探究に関わる行動の項目の授業で「なぜそうなるのか」と疑問をもって、考えたり調べたりしたという質問に対しても前年度と比べ肯定的回答が大幅に減少した。このことからも主体性をもたせることが不十分なため意欲的に探究させることができなかったと思われる。アンケート結果では、指導者の認識と生徒の認識にずれがある項目も多く見られる。そのため、フィードバックを丁寧に行える時間を設ける必要があり、指導者の評価と指導の一体化を着実に実践し、生徒の成長・変容を捉え、適切にコーチングする力を養う必要を感じる。次年度のカリキュラム作成にあたって、分析結果を教員間で共有し、効果的なカリキュラム設計を図っていきたい。

実施したアンケートは以下のようになっている。

	項　目 アンケート	実施主体	対象	実施時期	実施形態
1	高校魅力化評価システム	三菱UFJリサーチ&コンサルティング	生徒・地域住民等	令和４年８月	選択
2	防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート	大方高校	生徒	令和４年９月、令和５年１月	選択・記述
3	高知県オリジナルアンケート	高知県教育委員会事務局　高等学校課	県立高等学校の生徒	令和４年４月・11月、令和５年２月	選択

＜添付資料＞目標設定シート、高校魅力化評価システム・防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（生徒対象）・高知県オリジナルアンケート（生徒対象）

（２）発表会や各種会議の開催・参加

地域学においては出前授業を行うとともに、ふるさとキャリア教育における発表も地元ケーブルテレビで配信をした。また、総合的な探究の時間では、様々な活動を運営指導委員会、コンソーシアム委員、カリキュラム開発等専門家、外部の方に参加いただき、助言等をしてもらった。

教職員が参加した会議等には以下のものがある。

時期	テーマ他	参加者数	実施主体
４月	校内研修会 ・テーマ「これからの総合的な探究の時間の考え方」 高知大学次世代地域創造センター川村晶子准教授	20名	大方高校
６月	名古屋商科大学でのケースメソッド教授法研修	３名	名古屋商科大学
６月	高知市でのケースメソッド教授法研修	４名	名古屋商科大学
１月	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミット」	７名	文部科学省
１月	令和４年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」成果検証報告会	３名	文部科学省

（３）地域でのフィールドワーク等や連携した活動の実施

コロナ禍によりフィールドワークやインタビューを実施するのが難しい時期もあったが、少人数対応やオンライン会議システムの活用などで対応しながら以下のことを実施した。

時期	テーマ	内容
５月	砂浜美術館訪問	「美術館とは何か」を考えるにあたり、新たな価値を見出した砂浜美術館を五感で感じ活動を行った。
５月	インタビューの仕方	杉山氏から「未来のメモワール」のインタビューの仕方についてレクチャーをいただいた。
５月	臨時情報	杉山氏から「臨時情報」についてレクチャーをいただいた。臨時情報が発表された際、それぞれがどう行動するか考え、マイストーリーを作成
５月	高知県立美術館奥野様インプット	「美術館とは何か？」をテーマに、世界の美術館や、作品の概念等をインプットしていただいた。
６月	高知県立美術館訪問	砂浜美術館を見たのちに、一般的な美術館を体験し、モノの見方考え方の要素の入った作品展「奇界」を鑑賞した。
８月	オリジナルHUG	地域の方々と一緒にオリジナルHUG（避難所運営ゲーム）実施
９月	高知新聞社鍋島様フィードバック	「私が考える砂浜美術館とは？」をテーマに各生徒が書いたレポート課題についてケースライターや文章作成の専門家という視点から、講評していただいた。
９月	土佐佐賀産直出荷組合㈱ 浜町様へインタビュー	ケーススタディを実施。ケースを読み込み、疑問に感じたことや物事の考え方について、登場人材にインタビューをした。

９月	JICA 四国との交流	JICA 四国の研修生の方々とオリジナル HUG(避難所運営ゲーム）の実施
10 月	アイデアソン	テーマ｢私たちのまちを守るアプリを企画せよ｣をテーマに、コンソーシアム委員を含め、外部の方を 50 名、高知商業高校の生徒 15 名をお招きし、アイデアソンを実施した。
10 月	三角地カンガエル WS プロジェクト	株式会社わらびの畠中氏にファシリテーションしてもらい、ゾーニング（空間のイメージ）について思考
11 月	防災デー	東日本大震災を経験した紺野氏による当時の避難方法､生活の現実などの講演、各班に設定された避難場所から避難訓練､各班でのミッションや炊き出し､避難所運営訓練の実施
12 月	ワールドカフェ	「未来の黒潮町について考える」をテーマに自身で考えた 2050 年の黒潮町のアイデアスケッチを用いて発表し、外部の方 12 名より助言をいただいた。
１月	株式会社サニーフーヅ出水様へインタビュー	ケーススタディを実施。ケースを読み込み、疑問に感じたことや物事の考え方について、登場人材にインタビューをした。
１月	アイデアブラッシュアップ	「自分と社会を幸せにする｣アイデアを外部の方に発表と幸せについてのディスカッションを実施
１月	高知大学森先生インプット	２年生の町長提案にあたり「提案をする」とはどういうことかについてインプットしていただいた。
１月	出前授業	入野小学校５年生との交流授業｡災害発生時における避難についての課題を中心とした授業を実施
２月	砂浜美術館 山本様へインタビュー	ケーススタディを実施。ケースを読み込み、疑問に感じたことや物事の考え方について、登場人材にインタビューをした。
２月	ボランティアフェスティバル	防災デーや防災植物など地域学の活動を中心とした本校防災活動発表
２月	逃げトレ	巨大地震発生の想定のもと､杉山氏と一緒に土佐入野駅から学校まで逃げトレアプリを活用して経路確認と安全確認の訓練の実施
２月	臨時情報	杉山氏、矢守氏から臨時情報について学習した

１２　次年度以降の課題及び改善点

本事業は終了するが、次年度からがまさにスタートであると感じている。この３年間で得た「総合的な探究の時間」におけるカリキュラム設計の手法や「地域学」における地域との連携したカリキュラムの確立など、その成果は大きい。しかしながら、３年間で解決しなかった課題もまた多い。

「総合的な探究の時間」をはじめとする探究的な学習、地域と連携した学習の推進を分掌業務以外で担ってきたが、一部の教員への負担が増大したため、次年度からは分掌業務として位置付ける予定である。また、「総合的な探究の時間」については学年団による授業実践の形態をとっていることから、学年団での情報共有や指導に対する協議を密に行う必要がある。現在のところ組織的な動きの弱さから、担当教員による指導の格差が生まれ、生徒の成長に影響を及ぼしている。対策として“新たな会”を創出するだけがすべてではなく、今あるものの活用や効率化による改善策を見出していく必要があると考えている。この課題の解決は教員の新しい学習指導要領の正しい理解と変革を受け入れる柔軟さ、しなやかさが基本にあればそう難しいものではないと考えている。

【担当者】

担当課	高等学校振興課	ＴＥＬ	088-821-4542
氏　名	仁木 大輔	ＦＡＸ	088-821-4547
職　名	指導主事	e-mail	daisuke_niki@ken3.pref.kochi.lg.jp